

2001年8月21日

(株)博報堂 エルダービジネス推進室

HOPEレポート 「情報縁：つながる関係」

50歳以上のエルダー世代にとっては、「やっぱり家族が一番」。しかし、夫婦については夫の「片思い」現象がみられる。そして、家族の次は「趣味の仲間」が楽しみ。

夫の「片思い」状態への解消策は「一緒に外出/会話を楽しむ」がヒントになりそう。様々な相手との、つながる関係づくりのポイントは「趣味」、「TV・電話・メールなどメディアの活用」にあり。

HOPEレポート:高齢化が急速に進展するなか、50歳以上のエルダー世代は、いま変化しつつあり、注目されています。このエルダー世代に関する生活意識や現状を探っていくレポートです。

今回は、「つながる関係」をテーマに、HOPEサーベイの調査結果から「現在楽しみにしている付き合い・コミュニケーション」について見てみました。これに直近のインターネット調査を加え、関係づくりのコツも探ってみました。

カギとなる人間関係は「家族」が一番。その次は「趣味の仲間」。夫は「妻に片思い」の傾向。
(P3詳細データ参照)

1. やっぱり「家族」が一番

50歳以上のエルダー全体に共通なのは、何とんでも「子供とのコミュニケーションが楽しみ」、という点です。 ついで、「配偶者」で、65歳以上になると「孫」も上がってきます。

〔楽しみなお付き合い・コミュニケーション 50歳以上全体 自分子ども:72.0% / 配偶者:57.3% - P4参照〕
65歳以上 孫:67.6% - P6参照

2. 夫は「妻に片思い」の傾向

男女でギャップの大きいのが「配偶者」とのコミュニケーションです。「男性」の方が「女性」よりも、楽しみにしている割合がかなり高くなっています。

〔楽しみなお付き合い・コミュニケーション (配偶者) 男性67.3% / 女性48.8% - P5参照〕

3. 家族の次は「趣味の仲間」

子どもや配偶者や孫の次に高いのは「趣味の仲間」です。とくに、ニューエルダー(生活高活性化層 P8参照)は、他のエルダーに比べ「趣味の仲間」や「旅行仲間」との付き合いを楽しみにしている割合が高くなっています。

〔楽しみなお付き合い・コミュニケーション (趣味の仲間) 50歳以上全体 46.2% - P4参照〕

つながる関係づくりのカギも「旅行を含む」趣味」 (P9詳細データ参照)

様々な人との関係がどのような場面で、どのように成り立っているか、を聞いた結果です。

1. 夫婦の関係のコツ / 「一緒に外出・旅行」「日常の出来事を楽しむ会話、TVも素材に」
2. 子どもとの関係のコツ / 「食事しながら・お酒を飲みながら」「電話・メール・共通の趣味」
3. ご近所との関係のコツ / 「つかず離れず」「趣味がとりもつ縁」
4. 趣味仲間の関係特性 / 「趣味を離れても交流している」「これからもふれあいを深めたい」「パソコンも使って」

*このレポートは高齢者も読みやすい11ポイント以上の文字を使用しています。
(11ポイントは、これ以上小さくなると読みにくくなる下限です)

これまで発行したHOPEレポート

HOPEレポート で、従来の枯れて行く老後感とは違う志向性をもった「ニューエルダーの登場」と、50代以上のエルダー世代の人たちの関係づくりのキーワードとしての「情報縁」を提起しました。以降ではその現状と可能性をさらに具体的に探って行きます。

1. HOPEレポート ニューエルダーの登場（5月・既報）
 - ・ニューエルダーの登場
2. HOPEレポート 情報縁：つながる場（7月・既報）
 - ・ユニバーサルデザイン
3. HOPEレポート 情報縁：つながる関係（今回）
 - ・エルダーの人間関係エルダーの生活を活気づける「楽しみとする人間関係」「ふれあい」とは何か、を探ります。

博報堂エルダービジネス推進室のホームページ

<http://www.h-hope.net/>

これまで発行したHOPEレポートが全てご覧いただけます。

(資料1)

1. エルダー世代(50代以上)にとって「楽しい人間関係」とは何か - 博報堂エルダー生活者パネル「HOPEサーベイ」より -

「HOPEサーベイ」では、以下の25の「人間関係」について、「現在、あなたはどなたとのお付き合い・コミュニケーションを楽しみにしていますか」という質問を行なっています。

今回はその質問に対する回答結果から、エルダーにとっての人間関係を探ってみます。

< 回答の選択肢とした25の人間関係 >

趣味の仲間、旅行仲間、スポーツ仲間、サークル仲間、同じことを勉強している人、ペット仲間、職場の仲間、老人会、近所の知人、自治会・町内会、民生委員、同窓生、PTA仲間、病院の知り合い、同じ不安・悩みを抱えている人、ボランティア活動の仲間、若い世代の人、外国人、その道の専門家、

配偶者、自分の子供、孫、親、兄弟（姉妹）、親戚

博報堂エルダー生活者パネル“HOPEサーベイ”について

- エルダー層を対象とした、生活者調査パネル
- エルダー生活者の生活意識と実態把握のために定期的にマスター調査を行う予定
- マスター調査以外にも年間で数回の調査予定
- 企業・自治体等にも開放予定

調査地域：全国

調査対象：50～80代の男女個人（ ）

調査方法：郵送法

サンプル数：有効回収数2464サンプル（第1回マスター調査時）

設計セル：性別・年齢（5歳刻み）・地域

平成7年度国勢調査人口構成比に準拠してサンプル配分

調査実施機関：（株）インテージ（旧社会調査研究所：本社東京）

第1回マスター調査時期：2000年10月27日～11月7日

（ ）視点としては90歳以上も含みますが、恒常的調査としての回答可能最高年齢者が80代のため50～80代となっています。

当調査は「博報堂生活総合研究所」の協力で実施されました

エルダーにとっての「楽しみにしている人間関係」とは？

<エルダー全体>

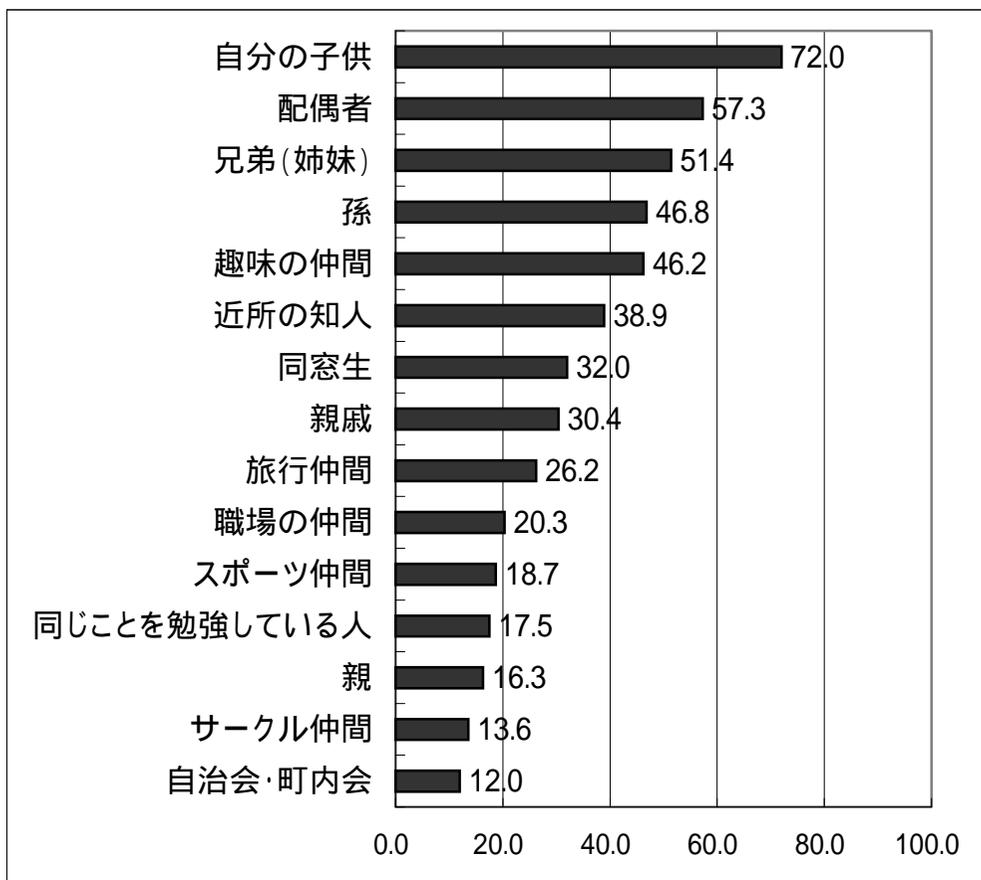
エルダーが楽しみにしているのは、何と言っても「子供とのコミュニケーション」

エルダー全体(50歳以上)で見ると、「楽しみにしている付き合い・コミュニケーション」の第1位は「自分の子供」。2番目の「配偶者」を10%以上上回っています。以下、兄弟姉妹、孫と血縁者が続きます。

一方、非血縁者で最もお付き合い・コミュニケーションを楽しみにされているのが「趣味の仲間」。46.2%のエルダーが趣味仲間とお付き合いを楽しみにしており、この数値は血縁者である「兄弟姉妹」ともそれほど差がないものとなっています。

質問文:「現在、あなたはどなたとお付き合い・コミュニケーションを楽しみにしていますか。」

(エルダー全体で10%以上の項目、N = 2464)



< 男女による違い >

男性の方が「配偶者とのコミュニケーション」を楽しみにしている

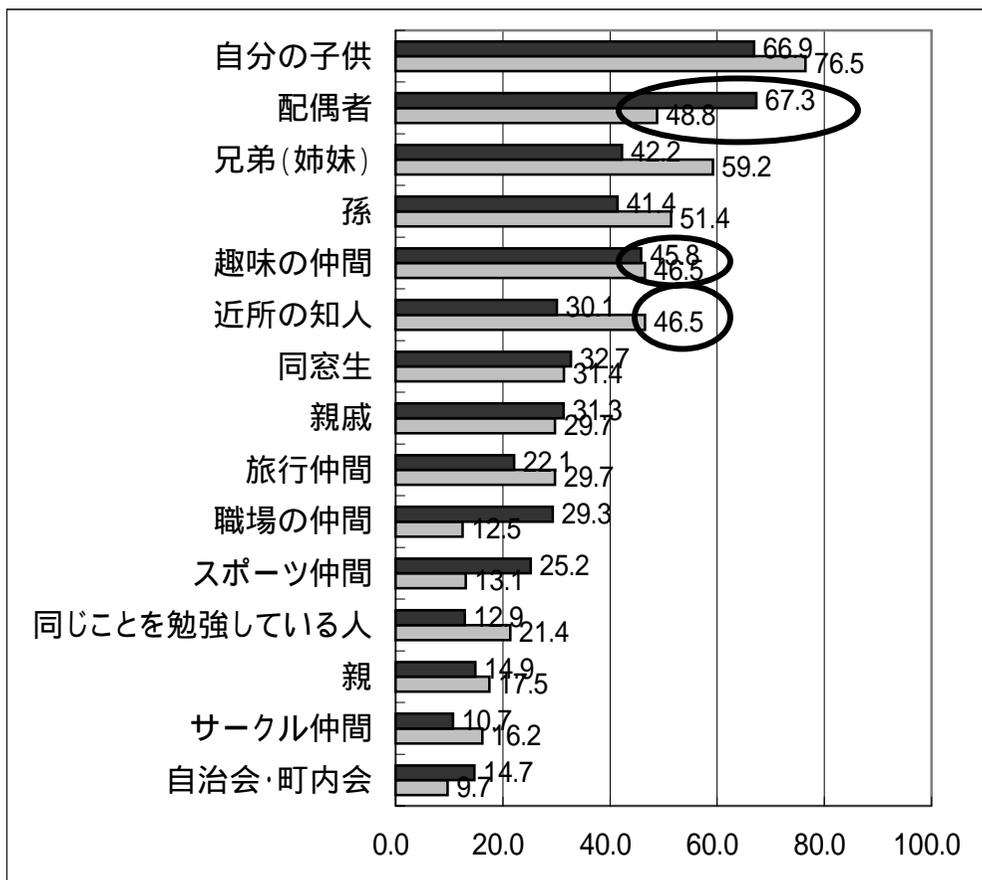
性別によって、「楽しみにしているお付き合い・コミュニケーション」に違いが見られます。

まず血縁者を対象としたコミュニケーションでは、男性では「配偶者」が女性よりも20%近く高く、一方女性では「子供」「孫」が男性よりも10%前後高くなっています。これは、女性サンプルの27.5%が「配偶者がいない」ことにもよりますが、気になる結果ではあります。

また、非血縁者とのお付き合いでも男女差が見られ、「近所の知人」とのお付き合いを楽しみにしている割合は、女性の方が男性よりも10%以上高くなっています。ちなみに、女性では、「近所の知人」(46.5%)、「趣味の仲間」(46.5%)とお付き合いを楽しみにしている割合は、「配偶者」(48.8%)とのコミュニケーションを楽しみにしている割合とほぼ同じです。

質問文:「現在、あなたはどなたとのお付き合い・コミュニケーションを楽しみにしていますか。」

(上段:男性 N = 1139 下段:女性 N = 1325)



<年代による違い>

65歳以上では、孫とのコミュニケーションが楽しみに

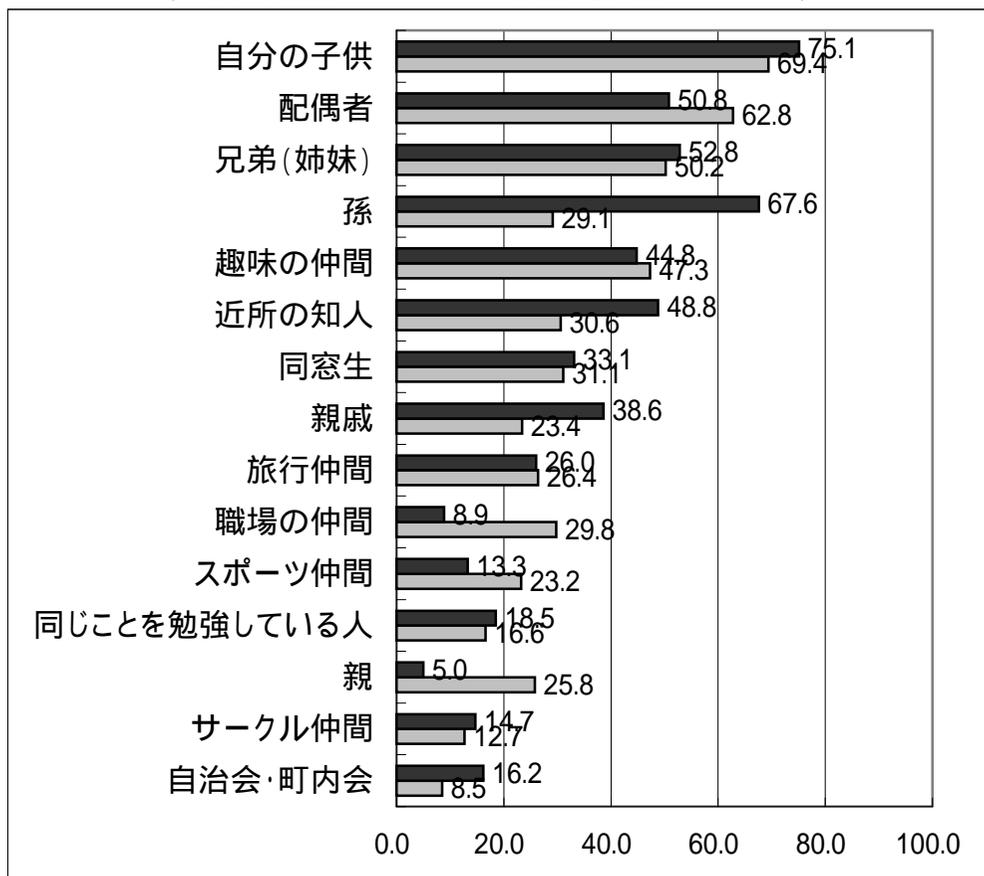
「エルダー導入期」(50～64歳)と「エルダー本格期」(65歳以上)でも、違いが見られます。

「導入期」では、「楽しみにしているお付き合い・コミュニケーション」は、「子供」「配偶者」「兄弟姉妹」(ここまでが50%以上)の順で、以下「趣味の仲間」が続きます。一方「本格期」では、「子供」の次に「孫」があがり、以下「兄弟姉妹」「配偶者」までが50%以上で、以下「近所の知人」「趣味の仲間」が続きます。

年齢的に、「導入期」ではまだ孫がいない方が多く、また「本格期」では配偶者を亡くされる方が多くなることの影響していると考えられますが、世代により「配偶者」に対する考え方が変わってきていることも考えられます。

質問文:「現在、あなたはどなたとのお付き合い・コミュニケーションを楽しみにしていますか。」

(上段:本格期 N = 1129 下段:導入期 N = 1335)



<生活活性化度による違い>

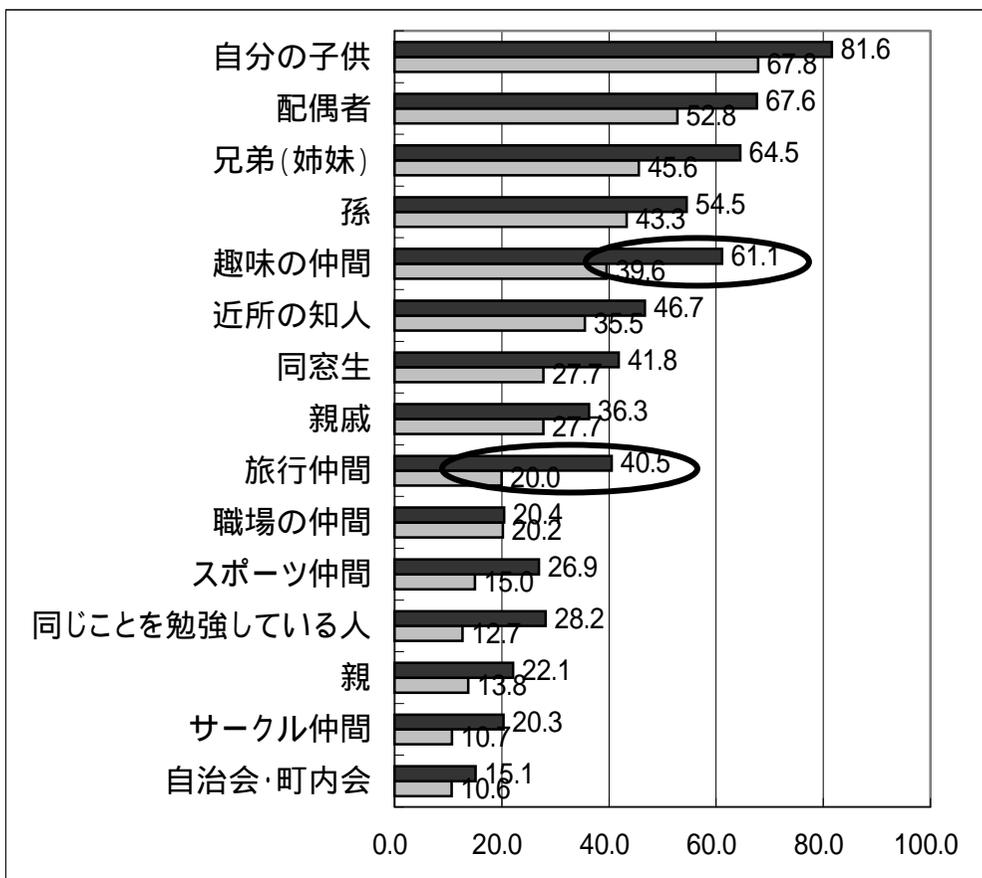
生活高活性化層は「趣味の仲間」「旅行仲間」とのお付き合いを楽しみにしている

博報堂が設定した「生活活性化尺度」(8ページの注参照)により、エルダーを「高活性化層」「中活性化層」「低活性化層」に分けて、今回の結果を見てみました。

すると、高活性化層では、「趣味の仲間」「旅行仲間」とのお付き合いを楽しみにしている割合が、中・低活性化層よりも20%以上高くなることがわかりました。このあたりの「人間関係」が、エルダーの生活を活気あるものにするカギであるように思われます。

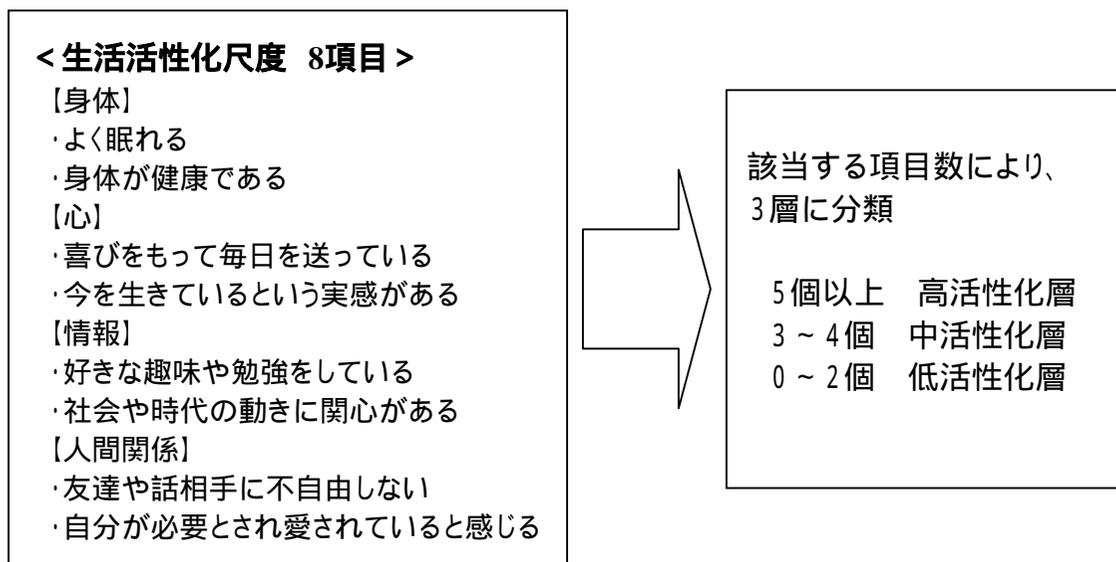
質問文:「現在、あなたはどなたとのお付き合い・コミュニケーションを楽しみにしていますか。」

(上段:高活性化層 N = 754 下段:中・低活性化層 N = 1709)



注・生活活性化尺度

「HOPEサーベイ」の設計・分析にあたり、エルダ－の生活がどの程度活気あるものであるかを測定するため、博報堂は以下のような「生活活性化尺度」を設定し、エルダ－全体を「高活性化層」「中活性化層」「低活性化層」に分けることを試みました。



(資料2)

2. 人間関係作りのカギも 趣味、旅行」

- インターネット定性調査から見てきた実態 -

エルダーの「ふれあい」についてのインターネット調査

調査地域 : グループインタビュー調査

調査対象 : 「家族との交流が充実している」あるいは「ご近所や趣味仲間と
親しいお付き合いがある」50～70代の男女 回収34サンプル
<内訳>

男性 50代 7サンプル 60代 11サンプル 70代 1サンプル

女性 50代 13サンプル 60代 1サンプル 70代 1サンプル

調査方法 : インターネット調査

調査実施機関 : (株)パワードエイジ(本社・東京)

調査時期 : 2001年7月19日～24日

何を取り持つ？人間関係

「HOPEサーベイ」の結果をふまえ、エルダーの人間関係をよりリアルに把握するため、私どもは新たにインターネット定性調査を実施しました。

今回の調査の内容は、「配偶者」「子供」「兄弟姉妹」「ご近所」「趣味の仲間」との人間関係が、「どのような場面で」「どのような話題で」成り立っているか、です。これにより、エルダーの人間関係の実態を探ってゆきたいと思います。

< 配偶者との関係 >

- ・全34サンプル中、配偶者とのふれあいが「とても多い」もしくは「多い」と答えた人18名、「普通」と答えた人12名、「やや少ない」もしくは「少ない」と答えた人1名、「いない」と答えた人3名。
- ・全体としては、「日常生活の出来事」「(テレビなどの)ニュース」「子供のこと」が話題としてあがっていますが、「ふれあいがとても多い/多い」人では、「喜び、楽しみなど、感情を表す」「一緒に外出してコミュニケーション」という回答があるのが特徴です。
 - 回答例)「お互いのその日の出来事を話し、良かったことは喜び合い、楽しい会話をするのが毎日の喜びです」(男性60代)
 - 「駅を巡って、写真を撮ったり、うどんの食べ歩き」(女性50代)
 - 「ほとんど毎日一緒に犬の散歩」(女性50代)
 - 「テレビのニュースを見ながらとりとめもない会話」(男性60代)
 - 「録画しておいた好きな番組のビデオテープを(一緒に)見る」(女性50代)
- ・「配偶者とのふれあいの理想のイメージ」で多かったのが、やはり「一緒に外出すること」。特に「一緒に旅行したい」という回答が目立ちました。
 - 回答例)「年に数回の旅行をする」(男性60代)
 - 「私は英語の勉強をしているのですが、主人にも勉強してもらって、一緒に個人的に海外旅行をしたいです」(女性50代)

< 子供との関係 >

- ・全34サンプル中、子供とのふれあいが「とても多い」もしくは「多い」と答えた人8名、「普通」と答えた人15名、「やや少ない」もしくは「少ない」と答えた人9名、「いない」と答えた人2名。

- ・ふれあいの場面として多くあがっているのは、「食事をしながら」「お酒を飲みながら」の対面型コミュニケーションです。

これに加え、電話でのコミュニケーションもあがっていますが、注目したいのは「インターネット、Eメール」をあげた人もいたこと。エルダーの親子コミュニケーションも「IT化」してきているようです。

回答例)「子どもは東京。e-mailが気楽に触れ合う手段」(男性60代、女のお子さんと)
「触れ合う機会は電話、メール」(女性50代、男のお子さんと)

- ・子供との話題は「友達のこと、彼氏・彼女のこと」「仕事のこと」「生活設計のこと」などですが、中には親子で共通の趣味を楽しむ「友達親子」も見られます。

回答例)「美術館で絵画鑑賞」(女性50代、女のお子さんと)
「カラオケボックスでデュエット」(女性50代、女のお子さんと)
「プロ野球中継で同じチームを応援」(女性50代、男のお子さんと)

< 兄弟姉妹との関係 >

- ・全34サンプル中、兄弟姉妹とのふれあいが「とても多い」もしくは「多い」と答えた人8名、「普通」と答えた人3名、「やや少ない」もしくは「少ない」と答えた人18名、「いない」と答えた人5名。

- ・全体としては「盆、正月に実家で」「食事をしながら、お酒を飲みながら」という対面型コミュニケーションが多くなっていますが、子供の場合と同様、電話に加え「インターネット、Eメール」でのコミュニケーションが見られるのが、新しい傾向と思われます。

- ・話題としては「お互いの近況、悩み事」「世間話」が多くなっていますが、趣味を通じたコミュニケーションの例も見られます。

回答例)「時々連絡して、趣味にしている歴史の会で一緒に楽しんだりしています」
(男性60代、妹さんと)
「月1回ゴルフ」(男性60代、弟さんと)
「パソコンの使い方などについて話をする」(男性60代、弟さんと)

< ご近所との関係 >

・全34サンプル中、ご近所とのふれあいが「とても多い」もしくは「多い」と答えた人2名、「普通」と答えた人13名、「やや少ない」「少ない」もしくは「ない」と答えた人19名。

・ご近所との関係の場合、「理想とするイメージ」に本音が見られるようです。近所付き合いの「雰囲気」について「和気あいあい」「なごやか」「楽しく」と答えた人でも、理想は「適度のプライバシーの維持」「つかず離れず」としていたりします。

回答例)「近所の付き合いは、つかず離れずがとても難しいです。

本当は、もっと親しく、お互いに困った時に駆けつけて助け合うのが良いんでしょうが...(女性50代)

「あまりプライバシーについては立ち入らないでほしい」(男性50代)

「お互いに深く立ち入らないように注意しています」(男性60代)

・一方、ここでも「趣味が取り持つ縁」が見られるのも特徴です。

回答例)「親しいおばあちゃまとの俳句談義のひとつは、何にもかえがたい至福の時間である」(女性50代)

「女房は、女同士でウォーキングを楽しんでいます」(男性60代)

< 趣味の仲間との関係 >

・全34サンプル中、兄弟姉妹とのふれあいが「とても多い」もしくは「多い」と答えた人11名、「普通」と答えた人15名、「やや少ない」もしくは「少ない」と答えた人7名、「いない」と答えた人1名。

・趣味の内容は、ゴルフ・釣りなどのスポーツから、旅行、園芸・ガーデニング、俳句・川柳、音楽、洋裁、ビジネス研究まで様々ですが、特徴は趣味の場を離れても交流があることです。

回答例)「お互いの家を訪問、酒を飲み、趣味の話をする」(男性50代、趣味:アマチュア無線)

「スポーツクラブで汗を流した後、近所のレストランで

「冷たい飲み物をとりながら会話」(女性50代)

「飲み会などで、とりとめのない話」(男性60代、趣味:川柳)

・このような「オフ会」があるためか、趣味の仲間は「これからふれあいを深めたい人たち」の第1位(34サンプル中10名)となっています。

・IT・パソコンも様々な場面に登場してきています。

回答例)「地域のIT育成にボランティアとして何人かでやる予定」(男性60代)

「身近に共通の趣味の人がいないので、パソコン上で探したい」(女性50代)

「趣味の内容は園芸、パソコン」(男性60代)

(ご参考1)

博報堂エルダービジネス推進室

昨年6月に設立。日本が急速に超高齢社会に向かうなか、情報コミュニケーション・マーケティングに関する開発・支援などのエルダー対応を推進中。エルダースライフ / 介護 / ユニバーサルデザインの3領域が対象です。

エルダー世代

ここでは、エルダー世代を50歳以上と規定しています。国連の規定で65歳以上が高齢者とされていますが、一方で団塊の世代の動向も注目をされています。博報堂エルダービジネス推進室はそのすべてをエルダー生活者にとらえ、これからどういう変化が起きていくのか、社会全体に対してどのような影響を及ぼすのかを探っています。

ニューエルダーに迫るキーワードは「情報縁」

これまでの「枯れていく」老後観とは異なった、元気で意欲的な「ニューエルダー」。より広い人々との「関係」を重視し、社会問題も含めた広い関心事を持ち、新しいメディアを積極的に活用しようとしている「ニューエルダー」へはどのようなアプローチが有効でしょうか？

そのために、考えておきたいキーワードがあります。それは「**情報縁**」。
すなわち、「マスメディアあるいは携帯電話・パソコンなど新しいメディアを活用」し、「健康・環境・趣味」など「関心事についての情報をメディアから入手・交換」しつつ、「仲間づくり」をするという、彼らの新しい縁づくり = 「**情報縁**づくり」を応援するという考え方です。

さらに、その縁づくりの場は、エルダー世代にとって接しやすく使いやすい場であることが、大切です。例えば「商品説明ツールも広告表現もユニバーサルデザインでわかりやすく」といった気づかいをしていくことが、小さいけれど、重要になります。縁づくりのメディアの1つとなる「IT」機器もユニバーサルデザイン対応が求められます。彼らのコミュニケーションの場としての「インターネットサイト」の積極的活用とユニバーサルデザイン対応も視点の1つでしょう。

「情報縁」でニューエルダーの人たちをつなぎ、彼らの生活をより楽しく、活性化させるという視点に、企業からのアプローチのヒントがあると私たちは考えます。

